

平成23年 9月21日(水)

指導者 南谷 静香

1 題材 「こころのうた」

2 目標

- 日本の旋律の特徴を感じ取って、聴いたり歌ったりする活動に進んで取り組もうとする。
- 曲想の特徴を感じ取り、歌い方や強弱、速度などを工夫することができる。
- 曲想や歌詞を生かしながら、歌に込められた思いや意図に沿って演奏することができる。
- 曲想の特徴を感じ取り、日本の旋律のよさやおもしろさを味わって聴くことができる。

3 指導観

- 本題材は、日本の旋律の特徴をとらえたり、音楽を形づくっている要素を感じ取ったりする活動をとおして、曲想を生かした表現の工夫をすることをわらいとして設定したものである。

高学年の子どもは、歌う喜びや歌唱活動の楽しさに気づき、自分の考えや意図をもって歌うことができる。また、自分のもつ思いや意図について、友達と考えるながら深めた工夫点を、歌ったり演奏したりすることとおして、表現することができる能力を身に付けることが大切である。

そこで、歌い方や強弱、速さなどの要素を生かして、友達とともに音楽表現を工夫する活動を設定した。ここで取り扱う教材「子もり歌」は、多くの人々に長い間親しまれてきた日本の歌で、曲の感じや歌詞の表す優しい感情や子どもに対する愛情など、子守りをする人の気持ちをを感じ取ったり、曲想に合った強弱や速度、声の出し方などの工夫点について考えたりするのに適している。また、工夫点をどのように表現するか子どもたち自身で考えさせることで、楽曲に込められた思いや意図に合わせた表現ができる。

このような学習を行うことは、音楽表現に対しての興味や関心を高めるとともに、歌に込められた思いや意図を主体的に表現しようとする態度を養ううえで意義深い。

- 子どもはこれまでに、題材「季節を歌おう」において情景を思い浮かべながら歌ったり、リズムの特徴や曲の山を感じ取って強弱を工夫して歌ったりすることができた。また、歌詞の特徴に気づき、日本語の美しさについても理解を深めることができた。しかし、曲想や歌詞の内容を生かして思いを込めて歌ったり、表現を工夫したりするまでには至っていない。

本学級の子どもは、音楽の学習に対して意欲的に取り組む子どもが多く、周りの友達と一体となって歌うことの楽しさやおもしろさを十分に感じている。また、自分たちの演奏を聴いて問題点を見つけたり、自分たちでよりよい音楽をつくるための工夫点を見つけたりするなど、友達と協力しながら問題解決しようとする姿も見られる。しかし、楽曲に込められた思いや意図を感じ取り、それを相手に伝えるような表現を工夫したり、友達と思考を深めながら表現を高めたりすることについては十分とはいえず、これからの指導によるところが大きい。

- そこで、本題材の指導にあたっては、歌詞の内容や曲想、旋律の特徴などを感じ取り、言葉で表現したり学習プリントに書いたりする活動をとおして、歌詞に込められた思いや意図を視覚的にとらえられるようにしたい。また、思いや意図を伝えることのよさを感じられるように、互いの歌を聴き合いながら活動できるようにしたい。

まず導入では、歌詞を朗読したり意味を理解したりすることで、子守りをする人の気持ちについて考えることができるようにする。また、楽曲を聴いたり、歌詞や休符に着目して曲想に合った速度や強弱、歌い方などについても学習することで、題材のねらいをつかむことができるようにする。

展開では、楽曲を歌って感じ取った旋律のよさや楽曲に込められた思いや意図についてグループで話し合い、書く活動を取り入れることなど、どのようにして相手に伝えることができるかについて十分に考えを深められるようにする。また、友達と考えた表現方法を学習プリントにまとめるようにすることで、歌に込められた思いや意図をとらえることができるようにする。

まとめでは、「子もり歌」の律音階と都節音階の2つの旋律を比べることで感じ取った、旋律の特徴や違いについて話し合うことで、曲想を生かした歌い方や表現を工夫することができるようにする。また、日本の伝統音楽にも触れることで、日本の音楽のよさや特徴について理解を深めることができるようにする。

4. 教材 曲

- 「子もり歌」 日本古謡

5. 指導計画(全2時間)

- (1) 曲想や歌詞の内容から子守りをする人の気持ちをを感じ取り、歌い方や表現を工夫する。 ————— 1時間(本時)
- (2) 旋律の違いを比べ、その違いを生かして表現の工夫に取り組む。 ————— 1時間

6 本時の目標

- 曲想や歌詞の内容を感じ取り、歌詞に込められた思いや意図を工夫して表現することができる。

7 指導過程

学習活動及び学習内容	指導上の留意点	資料・準備
(1) 本時学習について話し合う。 ○ 「子守歌」の鑑賞 ○ 本時学習のめあて 歌に込められた思いを、 工夫して表現しよう。	○ 赤ちゃんに見立てた人形を見せることで、子守歌のもつ曲想や子守りをする人の気持ちについて考えることに興味をもつことができるようにする。	人形 めあてカード
(2) 学習の進め方について話し合う。 ○ 学習の進め方 ・ 全員で話し合い ・ グループで話し合い ・ グループで発表	○ 全体の学習の流れを全員で確認することで、子どもが本時の流れについて見通しをもち、主体的に話し合うことや歌う活動に取り組むことができるようにする。	
(3) 曲想や歌詞から思いや意図を読み取る。 ○ 子守りをする人の気持ち ○ 歌に込められている思いや意図 ○ 楽譜の確認 ○ 音取り	○ 歌詞を朗読し、意味を確認することで、どのような歌詞なのか、内容を把握できるようにする。 ○ 実際におんぶや抱っこをまねをすることで、歌詞の内容も含め、歌に込められた気持ちや情景などを考えることができるようにする。 ○ 優しい8分音符の取り方と、強い8分音符の取り方の違いを示すことで、拍が赤ちゃんを優しくあやすような取り方になっていることに気付くことができるようにする。	歌詞
(4) 歌に込められた思いや意図を表現する工夫について話し合い、表現の工夫に取り組む。 ○ 思いや意図を工夫する点 ・ 強弱 ・ 速度 ・ 歌い方、声の出し方 ○ グループごとの歌唱活動	○ 強弱や速度等の工夫できそうな点を全体で確認することで、どのような点に注目して話し合えばよいか考えることができるようにする。 ○ 工夫したところを学習プリントに書く活動を取り入れることで、それぞれの工夫した点を明確にすることができるようにする。	キーワードカード 学習プリント
(5) 本時の学習についてまとめる。 ○ 本時学習の振り返り ○ 次時学習の見通し	○ それぞれが表現した工夫点のよさについて 伝え合いをさせることで、歌詞に込められた思いや意図を、歌唱をとおして伝えることのよさを全体で共有できるようにする。	ふりがえりプリント

8 本時の評価規準

- 歌詞の内容や曲想を感じ取り、強弱や速度などの歌い方を工夫して表現している。

【音楽表現の創始工夫】（話し合い・グループ活動・発表）